

全体テーマ

やまのほとりの「えん」  
山の辺の「えん」 ～泉州の『いろ』と『ころ』～

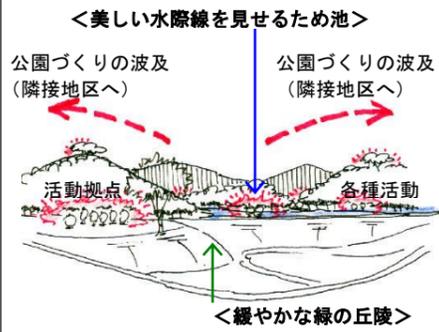
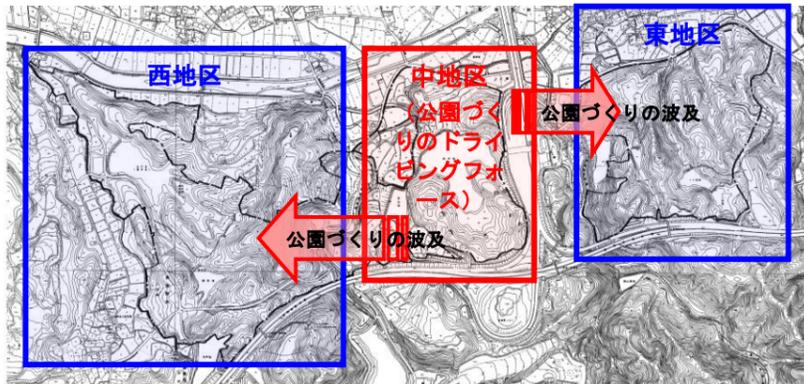
- 山の辺 泉州の山の辺の景観特性やそこで育まれた文化を活かしながら多彩なみどり景観づくりを行い
- 「えん」 みんなで演出しながら楽しみ、育む

日本の伝統色が織り成す「えん」づくりを行う

日本の伝統色、それは萌黄色、薄紅色など、古くから四季を通じて日本人が培ってきた美しい情緒

3地区の目標像

1) 3地区の目標像

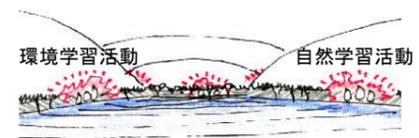


<中地区：中核拠点>

池畔の「えん」

- 緩やかな丘陵の緑と美しい水際線が織りなすため池景観づくりを基本に
- ・3地区の中核ゾーンとして、公園全体の活性化をうながす府民活動拠点として整備。
- ・地域の伝統文化や産業、民活導入施設等との連携を図り、地域活性化拠点とする。

<なだらかな丘陵や山並みに包まれた谷間のため池>

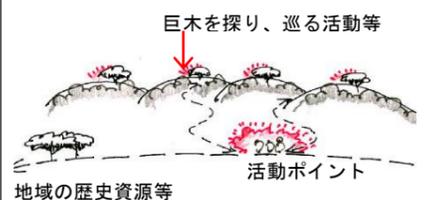


<西地区>

谷間の「えん」

- なだらかな丘陵から続く山並みと静寂感のあるため池がつくり出す谷間(たにあい)の森の景観づくりを基本に、自然豊かな環境を活かした自然学習や環境学習の場とする。

<尾根・谷が入り組む起伏の大きい地形>



<東地区>

森の「えん」

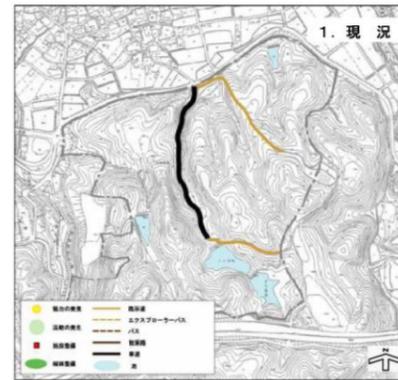
- 尾根と谷が入り組む地形変化に、巨木や多彩な植生が展開する樹林景観づくりを基本に、公園内外の景観資源(古木・巨木、地域の歴史資源等)を巡る自然散策の場とする。

東西地区の整備イメージ

1) 整備の基本方針 (エクスプローラーパス物語)

<基本的考え方>

○地区内の踏み分け道等を介した環境資源・魅力探しを通じて、各場所で徐々に活動が展開され、やがて発見された魅力やそこでの活動展開を見極めつつ、特色のある道(花のみち、光のみち、音のみち、彩りのみち等)や活動拠点・施設を整備していく。



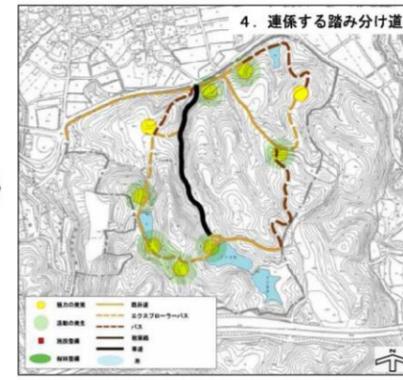
○既存の踏み分け道がある状態。



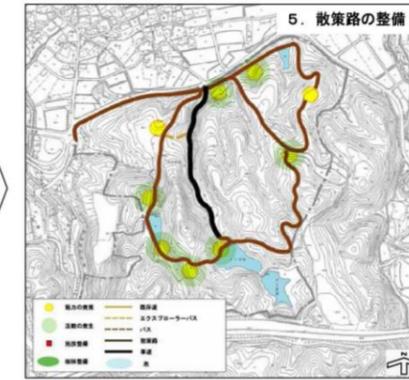
○踏み分け道などからエクスプローラーパス(探索路)を派生させ、園内の魅力を発見していく。



○発見した魅力を活かしながら、様々な活動を発生させる。



○発生した活動を結ぶパスを整備し、活動の活性化をはかる。



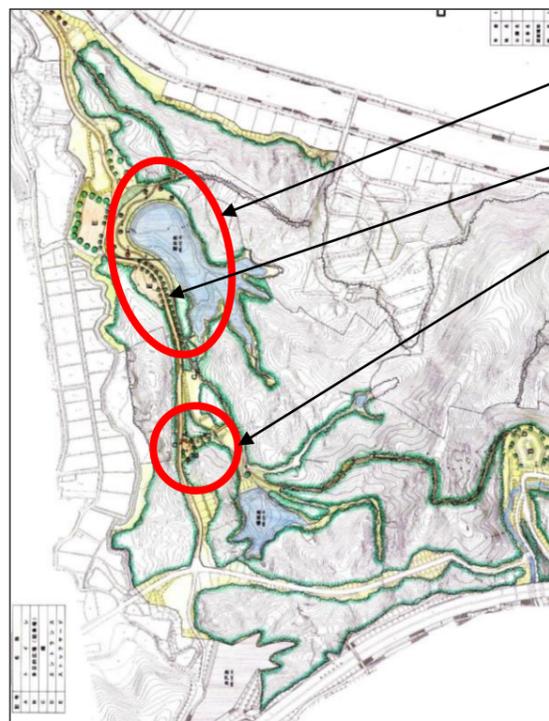
○活動を結ぶパスを活かし、それらを散策路として整備する。



○活動状況を見据えながら、必要となる施設や樹林の整備を行う。

2) 東西地区の整備概要

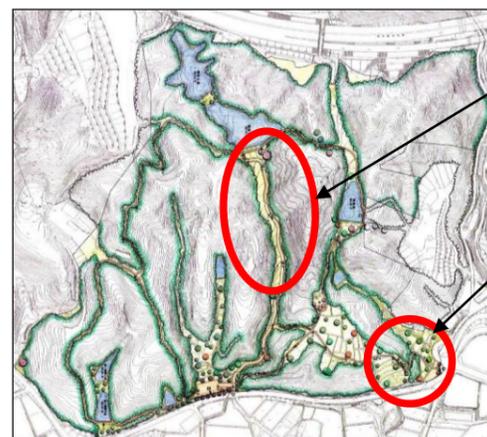
《西地区》



<西地区>

- 活動等を通じて、郷田池へのアプローチ沿いの修景を図る。
- ・郷田池の堤体を透かし見せるような竹林→樹林地への回復
- ・湿性植物等を鑑賞できる水みちづくり
- 山の池の堰堤を、水辺の風景堪能・自然観察空間として活用できるよう強化・拡幅を図る。
- 山の池の背景樹林を、活動等を通じて、散策可能な美しい樹林地に修景していく。
- 出入りに、トイレ・駐車場等の整備を図る。

《東地区》



<東地区>

- 活動等を通じて巨木を保全するとともに、観察・鑑賞できるように周辺の修景整備を図る。
- 西北側の出入り口のつづら折れ園路に、見え隠れを演出する疎密のグラデーションのある樹林をつくり、誘導効果を高めます。
- 活動等を通じて、ナシ谷下池の堰堤を越えて樹林地内へと周遊する散策路づくりを図る。
- 中央部出入りに、トイレ・駐車場を整備する。駐車場周辺に、道路と園地が緩やかにすり付く自然な緑のマウンドを設ける。そのマウンド上には、自然な雰囲気演出するような形の高木を植栽する。
- 活動等を通じて、奥に向かって疎密のある樹林景を創出していく。

